

海の動物を守るために

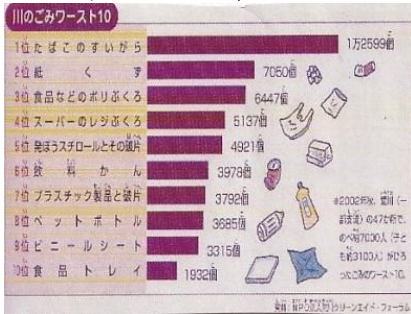
桜木小・5 西 彩萌

みなさんは海洋ごみ問題を知っていますか。海洋ごみ問題とは、道路に捨てられたごみが風で海に流されて海が汚されてしまうことです。

海洋ごみ問題が進むと、海の生き物にえいきようがでます。例えば、多くのウミガメやクジラ、アザラシ、そして海鳥などが、いろいろなごみや、つりをした人が捨てたつり糸にからまって死んでしまったり、傷ついてしまったりします。また、大量のプラスチックごみは生態系に大きなえいきようをあたえていて、このままだと今後ますます悪化していきます。

では、海洋ごみ問題はなぜ起きるのでしょうか。資料には、海洋ごみの個数が書かれています。この図から、多くのプラスチックごみなどがポイ捨てされていたり、海や川に直接捨てられていたりしていることがわかります。これからプラスチックなどのポイ捨てが海洋ごみ問題の原因の一つだと考えられます

では、海洋ごみ問題で死んだり、傷つけられたりしている海の生き物はどのくらいいるのでしょうか。「まいぷら」によると、海洋で絶滅つ危ぐ種をふくむ七〇〇種類もの海の生き物が死んだり、傷つけられたりしているそ



うです。この中の九十二%がプラスチックによるもので、プラスチックを食べている割合はウミガメが五十二%、海鳥が九十%だそうです。

それでは海洋ごみを減らしたり、なくしたりするためにはどのようなことをしたらよいのでしょうか。「gooddo」によると、リデュース、リユース、リサイクルの3R効果的だと考えられており、そのほかにも「ポイ捨て禁止」や「プラスチック製のスプーン・フォークなどの使用を控える」「屋外で出たごみは持ち帰る」なども海洋ごみを減らすために役立つと考えられています。このような簡単なことならわたし達にもできるのではないのでしょうか。

わたしは、海に流されているごみが多いとわかったので、ポイ捨てがなくなったり、一人一人の海に対する意識が変わったりすれば、もっと人も動物も生活しやすくなるという考えをもちました。

それからわたしは、海洋ごみを完ぺきに減らすことはできないけれど、少しでも道路などに捨てられるごみが減ればいいと思いました。また、ビニールぶくろだけ有料にしても、スプーンやフォーク、お手ふきが無料であれば結局同じことだと思えます。せめて有料にしたり、木製や紙製などにしたりすれば、いまよりもっと海洋ごみを減らせると思います。

今までわたしはポイ捨てをしないことや、マイバッグを使用すること、外で出たごみは持ち帰ることをやってきました。

わたしは海洋ごみ問題のことを調べて、「長時間外にでるときにはマイボトルを持ち歩くこと」や「プラスチック製のスプーンやフォーク、ストローをもらわないようにすること」「飲食店でお手ふきをもらわない」など、自分にできることがたくさんあるとわかりまし

た。また、身近な大人に聞いたところ、「食品用ラップをできるだけ使わないようにして、代わりにくり返し使えるシリコン製のふたやタッパーを使うようにする」「スーパーでトレーのある物を買わないようにする」など、生活にうまく取り入れている人もいました。

これからはわたしも、大人に聞いたことを参考にしながら、今より積極的に取り組んでいきたいと思います。

海洋ごみをなくすことは、自分たちと同じように生活している海の生き物を守るためでもあります。海の中にたくさんごみがあることで、彼らの過ごす場所がせまくなってしまふのです。それだけでなく、海の生き物が過ごしにくくなるということは、めぐりめぐってわたし達人間も過ごしにくくなるということにつながります。一つ一つはかん単だけど、それをけい続することは難しいかもしれません。しかし、ポイ捨てをしないなど、自分ができることや、みんなのできることに、ぜひ、積極的に取り組んで、海の生き物だけでなく、わたし達自身も守りましょう。